

## 多職種心不全チーム医療に携わる 理学療法士の育成

片野 俊敏

札幌医科大学附属病院 リハビリテーション部  
日本理学療法士協会 認定理学療法士(循環)  
心臓リハビリテーション上級指導士

近年の多職種心不全チーム医療に携わる理学療法士は、日々進歩し変革する循環器医療の実際を理解した高度な臨床実践能力が求められている。その能力の基本は、臨床現場で要求される医療に適切に対応し、学術研究成果や先端的技能を適切に活用することといえる。一方、理学療法の教育に目を移すと、こうした能力を系統的に育むとともに、個々の能力や将来設計に応じたキャリア形成を支援する臨床教育の環境は極めて希である。本学附属病院では、理学療法士・作業療法士研修センターを設置し、専門化した理学療法を推進するための臨床実践能力の向上を目的とする研修プログラムを2014年度より運用している。本稿では、多職種心不全チーム医療に携わる理学療法士の育成に関し、当院での取り組みを紹介する。

札幌医科大学附属病院

理学療法士・作業療法士研修センター

当院は“道都”札幌の中心にある公立の医系総合大学の附属病院として、北海道の医療と福祉を支えている。これまでの保健医療学部、保健医療学部大学院での教育に加えて、2014年度には、より実践的な研修プログラムを全国に先駆けて策定し、その運営部門として当研修センターが機能している。本研修プログラムでは、医師と強い連携が確保させた専門化した理学療法や作業療法を推進していくための基礎的・専門的知識、技術、および医療人としての態度などの臨床能力の向上を目的としている<sup>1)</sup>。この目的を達成するために、リハビリテーション科および関連診療科との協力関係を確保し、一定期間大学附属病院に勤務しながら（給与支給を受けながら）研修を進める。研修理学療法士・作業療法士の多様な臨床経験や希望に沿った研修を推進できる個別プロ

ラムであり、新卒研修や学び直しを目的とする総合研修プログラムと、より高い専門性をもつ専門研修プログラムを提供している。このうち、4つの専門コース（運動器障害系、内部障害系、小児・神経障害系、高次脳機能障害系）からなる専門研修プログラムでは、各コースに配置された研修コーディネーターの管理のもと、指導療法士による1対1の指導体制を確保している。年間3症例のケースレポートを参考に研修管理評価委員会が研修到達状況进行评估する。また、ケースレポート提出時にあわせて指導責任者も兼ねる研修コーディネーターにより形式的評価を実施し、研修経過を確認している。

専門研修プログラム内部障害系コースの紹介

専門研修プログラムの一つである内部障害系コースでは、将来の多職種心不全チーム医療を担う人材を育成し、循環器理学療法の基礎的・専門的知識や技術の修得に加え、問題対応能力、安全管理能力、医療記録やプレゼンテーションといった医療人としての基本姿勢・態度の育成を目指している。1年間の研修期間中に、心不全や虚血性心疾患、弁膜疾患など様々な循環器疾患の理学療法を経験しながら、病態に応じた専門的理学療法を的確に行うための臨床能力を育成する。On the job trainingによる教育体制を柱とし、臨床業務を行いながら基礎的・専門的知識や技術を習得し、問題対応能力や安全管理能力の育成を進めている。医療記録やカンファレンスでのプレゼンテーションを通して、意見や考えを的確に伝える能力の向上を支援し、また、循環器専門医や慢性心不全看護認定看護師をはじめ、各メディカルスタッフとの緊密なコミュニケーションを通して心不全診療に関わる様々なメディカルスタッフの思考過程を学び、チームの構成員としての役割を理解し、協働できる人材育成

にも努めている。更に、本研修プログラムを補完するために、臨床研究のアシスタント、各種講演会への参加、学術集会での研究発表といった off the job training も進めている。

過去6年で北海道内を中心に全国から7名（道外：3名）の理学療法士が内部障害系コースを修了した。修了後は心臓リハビリテーション指導士や日本理学療法士協会認定理学療法士など関連学会の資格を取得し、1名は大学院へ進学した。また、国際学会（欧州心臓病学会、欧州サルコペニア・悪液質・消耗性疾患学会）での研究発表、英語論文の執筆<sup>2)</sup>など、研究活動にも精力的に取り組む、更なるキャリア形成に励んでいる。

### 今後の課題

研修プログラムを適切かつ効果的に運用するためには、指導体制を充実化することは極めて重要である。特に、研修指導の質の担保や指導療法士の育成、修了後の継続的な臨床教育環境の整備は急務である。これらに対しては、指導マニュアルの作成や、指導療法士の育成プログラムの整備、他施設との連携強化が重要な対策と考えている。

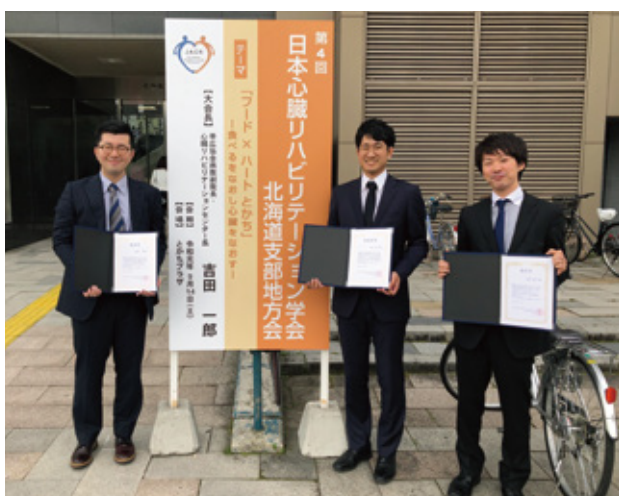
図：専門研修プログラム（内部障害系コース）の研修風景



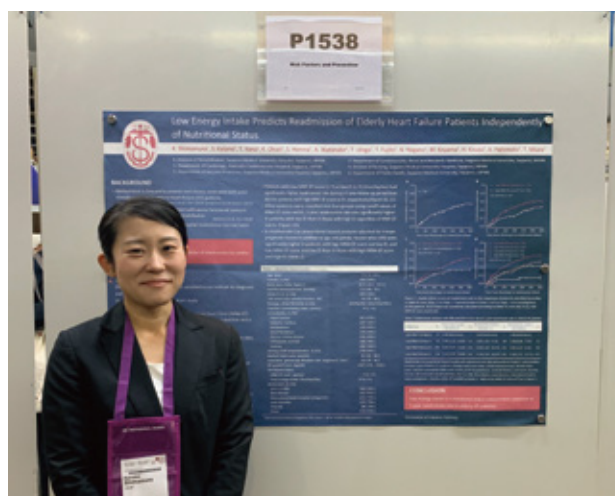
a：心不全カンファレンスの様子



b：症例報告会でのプレゼンテーション



c：心臓リハビリテーション学会  
第4回北海道支部地方会でのYIA受賞



d：欧州心臓病学会での研究発表

参考文献

- 1) 札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センター：<https://web.sapmed.ac.jp/ptot-tracen/> (2020/4/10 閲覧)
- 2) Katano S, Yano T, Ohori K, Nobutaka N, Honma S, Shimomura K, Ishigo T, Watanabe A, Honma R, Fujito T, Koyama M, Kouzu H, Hashimoto A, Katayose M, Miura T. Novel prediction equation for appendicular skeletal muscle mass estimation in patients with heart failure: Potential application in daily clinical practice. *Eur J Prev Cardiol* 2020. [DOI: 10.1177/2047487320904236].